



**\*深刻な獣害被害**

シカやイノシシによる被害は、三重県全域で深刻な問題となっています。せっかく植えた苗木が食べられてしまうため、防護柵の設置などに追加のコストと手間



**\*労働力の不足と高齢化**  
現場を支える技術者の高齢化が進んでおり、経営体数も減少していることから、若年労働力の確保は急務です。林業は「危険・きつい」というイメージが強く、離職率も低くありません。熟練の技術が次世代に継承されないことは、山を守る機能そのものが喪失します。

格はピーク時の半分以下にまで落ち込みました。一方で、急峻な地形が多い三重県では、伐採や搬出に多大なコストがかかります。「植えても赤字になる」という状況が、再造林(伐った後に植えること)を躊躇させる最大の要因となっています。

# 三重県の美しい山々を次世代へ繋ぐ

文=株式会社百五総合研究所 代表取締役社長 海住 禎人

三重県の林業は、単なる産業の枠を超え、この地の文化や歴史と深く結びついています。北は鈴鹿山脈から南は紀伊山地の峻険な山々まで、三重県の森林面積は県土の約64%を占め、全国屈指の優良木材生産地として知られています。三重県の林業の歩み、直面している厳しい現実、そして次世代へとつなぐための、未来への挑戦についてまとめました。

## ① 三重県林業の歴史… 伝統とブランドの形成

三重県の林業は、古くから伊勢神宮の遷宮や江戸の都市建設を支える重要な供給源として発展してきました。特に、尾鷲ヒノキは、急峻な地形でゆっくと育つため、年輪が緻密で強度が極めて高く、江戸時代から高級建材として全国に名を馳せました。また、松阪市(飯南町、飯高町)や津市(美杉町)などの地域においても、優れた育林技術によって、スギ・ヒノキが生産され、地域経済の柱となってきました。

## ② 現状… 数字で見る 三重県の森林と 産業構造

現在の三重県の林業は、日本有数の木材生産力を維持しつつも、構造的な変化のなかにあります。

**\*木材生産の現状**

●森林蓄積量…戦後に植栽されたスギ・ヒノキが主伐期(利

用可能な時期)を迎えており、資源量は過去最高水準にあります。

●ブランド力…尾鷲ヒノキ、飯高町や美杉町の杉など、地域ブランド化された木材が根強い人気を持っています。

**\*経営体数の減少**

2025年の農林業センサス(概数値)によると、三重県内の林業経営体数は352経営体と、前回調査から約33%も減少しました。これは、小規模な森林所有者が経営を断念し、集約化が進んでいる、あるいは放置されている現状を物語っています。

## ③ 直面する課題… 低迷する木材価格と 山の危機

歴史ある三重県の林業も、現在はいくつもの深刻な課題に直面しています。

**\*木材価格の長期低迷とコスト増**

安価な輸入材の普及や住宅様式の変化により、国産材の価

## ④ 今後の展望… 「価値」の再定義

が上がり、林業経営をさらに圧迫しています。

### ④ 今後の展望… 「価値」の再定義

これらの課題を克服するため、三重県では伝統を活かしつつ、テクノロジーと新しい価値観を融合させた「攻め」的林業へと転換を図っています。

**\*スマート林業の導入**

ドローンによる森林計測や、自動走行する高性能林業機械の導入を進めています。

●効率化…これまで人が山を歩いて行っていた調査をデジタル化し、コストを大幅に削減します。



●安全性…危険な作業を機械化することで、若者が参入しやすい「かつこよく、安全な」職場環境を目指しています。

**\*エリートツリーと循環型林業**

成長が早く、材質も優れた「エ

**\*木以外の価値への注目**

リートツリー(特定母樹)の植栽が始まっています。通常の半分程度の期間で収穫できるため、投資回収を早め、林業の採算性を向上させる切り札として期待されています。

●J-クレジット…森林による二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収量を価値化し、企業に売却する仕組みです。

●森林観光(森林セラピー)…三重県の美しい山々を観光資源として活用し、都市部の人々と森林を結びつける取り組みも活発で、津市美杉町には、森林浴が楽しめる「美杉森林セラピー基地(12コース)」があります。



長い産業です。三重県が誇る美しいヒノキ林・スギ林は、先人たちが未来の子孫のためにと汗を流した結果です。

現在の私たちが直面している課題は、単なる一産業の衰退ではなく、国土の保全と伝統の継承の危機です。スマート林業による効率化と、J-クレジットなどの新たな収益源を組み合わせることで、再び「山を育てること」が誇りと利益を生む社会にしていく必要があります。

林業は、今植えた木の価値が出るのが50年後、70年後、100年後という、極めて息の

## ⑤ 100年後の山を創るために

三重の豊かな山々は、適切な手入れがあつてこそ維持されます。「使うことで守る」という循環を、県民全体で支えていくことが、これからの三重県の林業に求められる姿と言えるのではないでしょうか。